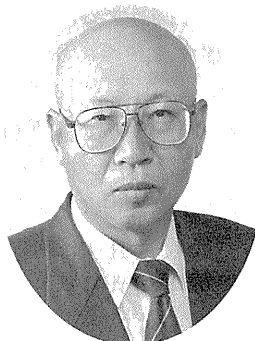


ずいそう



テニスと出会い

中原 照 雄

1955年、テニス全米選手権男子ダブルスで日本人選手が優勝したというニュースを新聞、ラジオで知りました。日本人選手とは宮城淳さんと加茂公成さんです。また両選手はデビスカップでも世界の強豪選手相手に互角に戦っていました。全世界をラケット一本引っ提げ、体格のすぐれる外国人選手と勝負する姿に憧れ、高校に入学して直ぐにラケットを握りました。これが私とテニスとの初めての出会いでした。

高校生時代は部員も多く、コートも一面で十分練習時間も得られず、近所のアパートの壁を相手に管理人のおばさんの目を盗みながらボールを打ち込みました。壁に水玉模様が一面に出来た事を今でも憶えています。

当時のテニスラケットは木できており、重たく、しっかりと握り強く打たないとボールは飛んでいきません。フレームに当てるようなスマッシュでもすると一発で破壊してしまう強度しか持っていませんでした。今日のラケットは軽量合金製で軽く、スウィングスピードを速く出来るし、強度と弾性をバランス良く確保した物に飛躍的に改良されています。この技術の進歩の御陰で年を取った今日でもスピードボールを打つ事が出来て、テニスをより楽しいものにしてれています。

大学生時代も体育会に入りテニスを続けました。関西学生リーグ1部で3位という強豪大学であった為に、周りには後にデビスカップ選手になった渡辺（康）選手、小浦選手等日本学生のトップクラスの選手が相手チームとして同じコートで目の前でプレイしていました。圧倒され別世界の印象が強く、壁打ちで覚えたテニスからは程遠い本物のテニスに出会ったという印象でした。

同世代の学生として大いに刺激され少しでも近づこうと、テニスを見て真似もしました。徹底的に基本練習もしました。当時世界にバレーボールで名を馳せた日紡貝塚の専属トレーナーの指導による体力作りもしました。スポーツの基本を色々と経験しました。残念ながら素質と

信念の不足から実力の方は余り上達しませんでした。

体育会という厳しい活動の為、新入生の時には多くいた同期生も卒業時には数人しか残らず多少寂しい思いでしたが、当時の仲間とは今でも年1回1泊2日のテニスと温泉という組み合わせでお付き合いをお願いしています。

会社に入ってから仲間を集めてテニス部を作り、各事業所間の全社対抗戦もやり始め、今でも参加し続けています。この頃世界ではプロテニスが盛んになり始め、今でも印象に残るプロ選手との出会いがありました。ケン・ローズウォールのテニスの基本を見せてくれる正確なストロークとクリス・エバートの華麗で美しいプレイスタイル、お2人とも紳士淑女で審判のミスジャッジも微笑みで返して次のプレイへと移るフェアプレイ。自分でテニスを楽しむと同時に世界一のプレイを鑑賞する楽しみ方も覚えました。

社会人になって実業団の大会にも参加しました。全国実業団テニス大会で北陸代表として参加し、東海代表のあこがれのデ杯選手の小西さんと対戦出来ました。緊張の余り手も足も動かず0-6の負け、当然の結果で残念でしたが私の最も勢いのあった時の思い出です。一度だけ優勝経験があります。京都府実業団大会一部で団体優勝しました。全て接戦で3-2で勝ち抜き、その時の仲間とは25年程たった今でも休日にはコートで一緒に汗を流し、ビールで仕上げというお付き合いをさせて頂いています。「あの時、お前は負けた。おれは勝った」といつも同じ話題になります。楽しい1日を過ごせます。

3年程前、友人の紹介でテニスを始めたきっかけとなったデ杯選手の加茂公成さんと神奈川のコートでテニスをやる機会に恵まれました。憧れの加茂さんとダブルスを組んでプレイしました。夢のような気持で最後に握手をした時は感無量でした。私とは12才年をめされていますが動き、プレイは若々しく昔の印象が残っていました。私も12年後、加茂さんのように若々しくプレイ出来るようになろうと新しい目標を作りました。

私はほかにも多くの方々とテニスを通じて出会いをしています。テニスを始めて42年目になりますがテニス続けて来たお陰で多くの出会い、多くの仲間が出来ました。一生のスポーツとしてこれからもテニスを愛し続け、新しい出会いを期待し、大事にして行きたいと思っています。

皆さんテニスと一緒にやりませんか。